

小胞体-ゴルジ体膜接触を介した タンパク質分泌制御



日時：平成29年12月22日（金）14：00－15：15

場所：共通講義棟3号館1階 104室

講師：東京薬科大学 生命科学部 分子細胞生物学的研究室 若菜 裕一

脂質合成の場である小胞体は、様々なオルガネラとの間に脂質輸送・代謝に働く膜接触部位を形成している。小胞体-ゴルジ体接触部位では、小胞体膜タンパク質であるVAPやSac1がトランスゴルジネットワーク（TGN）膜上のCERTやOSBPとの結合を介し、セラミドとコレステロールをゴルジ体へと輸送する。しかし、この小胞体-ゴルジ体膜接触がゴルジ体機能に果たす役割はこれまでよくわかっていない。私たちは以前、TGNから細胞膜への構成性分泌経路を仲介する新規輸送小胞CARTS（carriers of the TGN to the cell surface）を同定し、TGNでのCARTS形成ならびにCARTS積み荷タンパク質ZG16B/PAUFのプロセッシングに、上記の膜接触を介した脂質輸送が必要であることを報告した。本セミナーでは、その分子メカニズムに関する研究成果と膜接触部位新規構成因子の探索の試みについて紹介する。

＜協力＞リーディング大学院推進センター